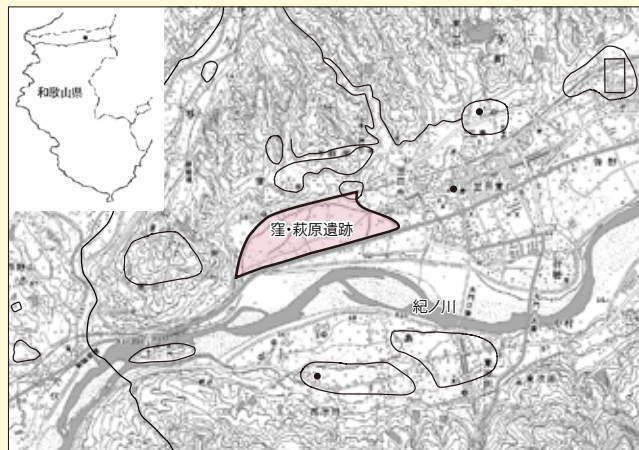


遺跡の概要

窪・萩原遺跡は、和歌山県の北部、紀ノ川中流域の伊都郡かつらぎ町に所在しています。すぐ西側には妹山・背山という二つの小高い山が南北から紀ノ川を挟むように迫っており、通例この二つの山を総称して“妹背山”と呼んでいますが、この妹背山は古代にあつては畿内と畿外の境界線とされていました。つまり、この付近は畿内の南限に当

たると地域であったと言えます。その頃は、当地付近を古代の官道のひとつであった南海道が通っており、それに付随する駅家である萩原駅家が置かれていたとされています。

また、このあたり一帯は、中世の荘園である「^{かせだのしょう}柿田荘」の故地にあたっています。柿田荘については、これまで多くの荘園研究者がその研究対象として取り上げ、また、その絵図が高校の社会科の教科書にもひろく掲載されるなどわが国の荘園の中でも最も著名な荘園のひとつと言えます。

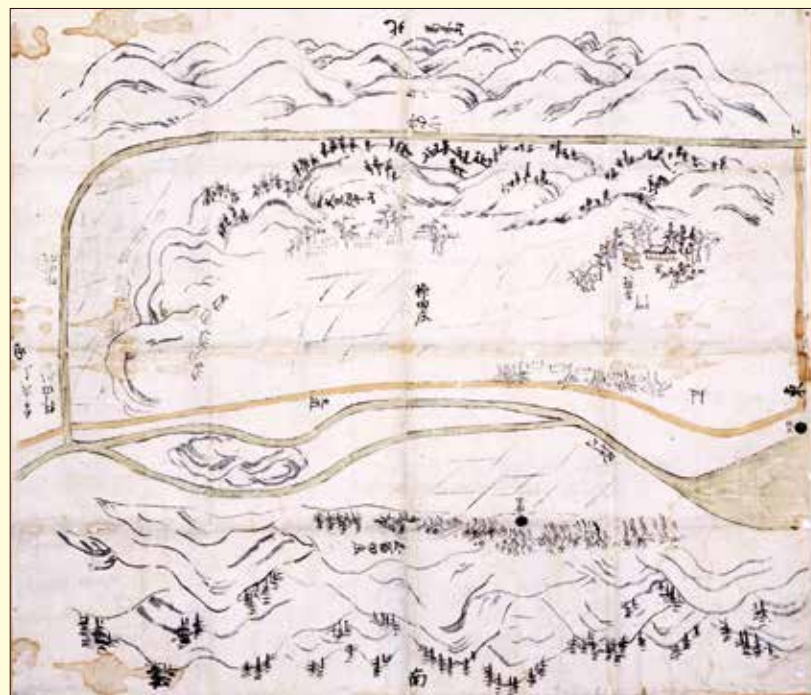


窪・萩原遺跡位置図

調査の成果

この堤防の特徴は、水制を伴っていたこと、その法面の傾斜が緩やかなものであることです。一般的に堤防の法面は古い時代ほど緩やかに造られています。こうした堤防独自の特徴や出土した遺物などから、この堤防は 16 世紀の末ないし 17 世紀のごく初めに造られたものである

ことが判明しました。この時期は、和歌山においては豊臣秀吉の配下であった浅野幸長の治世に当たっています。全国的にも古い堤防であり、わが国の堤防の歴史や治水の技術史を考える上でも貴重な遺構であることが判明しました。いまひとつは、柿田荘絵図の解明の手がかりを得たことです。絵図に描かれている“大道”の痕跡が発掘調査の結果、沖積低地ではまったく確認できず、北側の段丘上であったと想定されるようになりました。このことはこれまでの絵図の研究に一石を投じる大きな成果であったと言っていいでしょう。



柿田荘絵図 (宝来山神社蔵) 写真提供: 和歌山県立博物館

編集・発行元：公益財団法人 和歌山県文化財センター
〒640-8401 和歌山市岩橋 1263 番地の 1 TEL：073-472-3710 FAX：073-474-2270
発行日：2019 年 3 月 29 日 印刷：株式会社ウイング

平成30年度国宝重要文化財等保存・活用事業費(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)の補助金を受けて作成しました。

和歌山県の文化財④

かつらぎ町

窪・萩原遺跡

柿田荘で見つかった石積み堤防

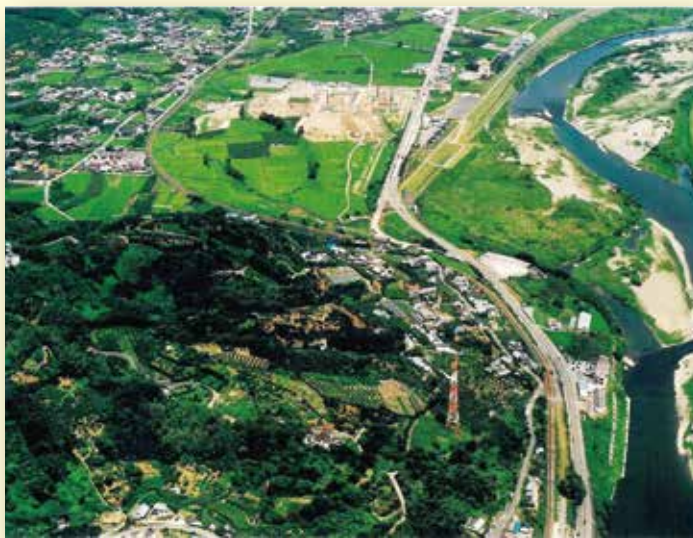
くぼ・はぎわらいせき

2019
公益財団法人 和歌山県文化財センター

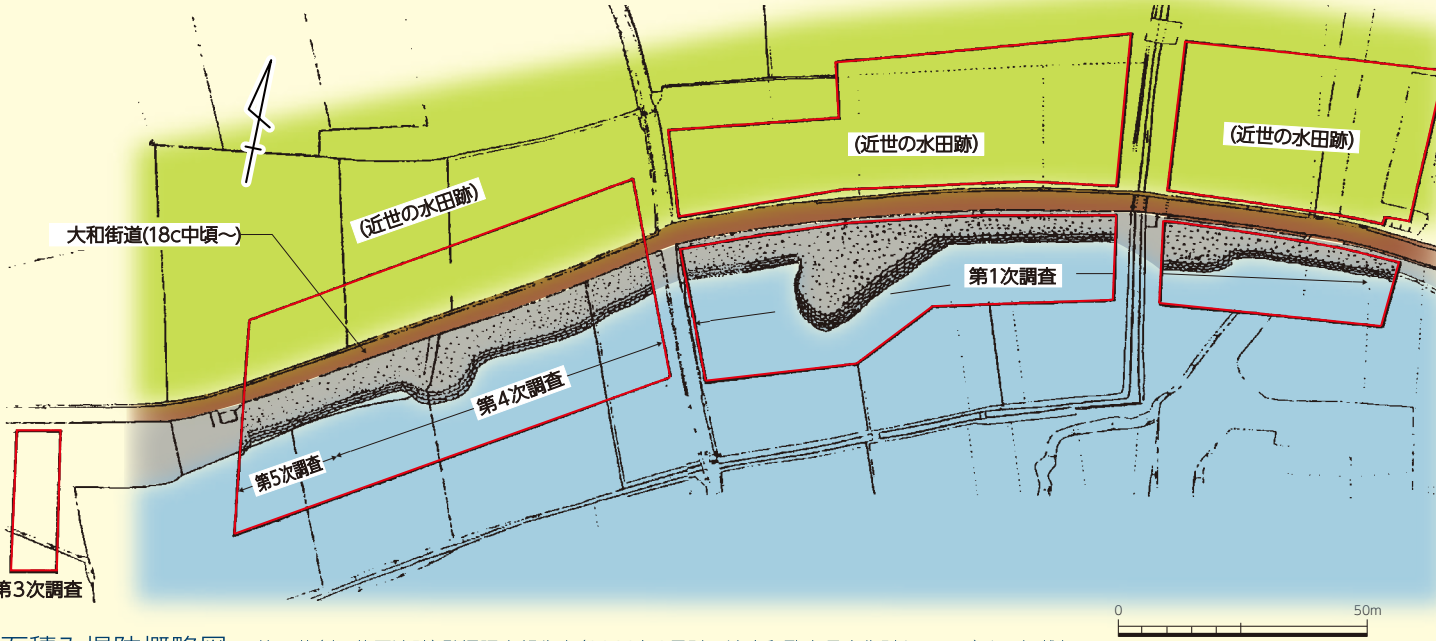
発見の経緯と
堤防の規模

発掘調査は広域の下水処理場建設に伴うもので、平成 8 年度から同 10 年度にかけて実施しました。調査地は現在の紀ノ川の堤防から 200mほど北側の沖積低地に当たる箇所です。調査前の現況は水田でしたが、この水田面から 2mほど下で大規模な石積みの堤防が見つかりました。

堤防は幅 4mほどで、地形に沿うようにゆるやかに弧状をなして東西方向に延びるもので、延長 230mほどを検出しました。高さはもっとも残りのよい部分で 2mほどです。



調査地遠景



石積み堤防概略図 柿田荘(窪・萩原遺跡)発掘調査報告書(2002年2月財団法人和歌山県文化財センター)より転載加工



第4次調査全景



第1次調査全景

堤防のつくりと
歴史的価値

途中、ほぼ一定間隔で三箇所の出っ張りが造られていますが、これは“出し”とか“刎ね”と古くから呼ばれている水流の勢いを殺いで、堤防本体が崩れるのを防ぐ水制施設です。規模や形状はさまざまですが、一番大きなものは三角形に近い形を呈し、水流が激しく当たる上流側に比較的大きな石を用いて堅固につくられていました。

この堤防に用いられている石は結晶片岩といわれる紀ノ川の南岸で採れる石と河原石の二種類があり、法面には結晶片岩を、裏込めには河原石と使い分けがなされていました。堤防本体はよく見ると三段に分けて構築されていました。法面の角度は 20 度前後と緩やかに造られています。

堤防と言うと、昔からどこにでもあるように思われますが、記録に残っている堤防や現存している古い堤防はほとんどないといっている状況です。それだけに窪・萩原遺跡で見つかった堤防は、当時多くの人々の注目を集めました。

さらにその 10 年後、平成 19 年に京都府の宇治市で豊臣秀吉が文禄年間(1593 ～ 96)に築かせたといわれる堤防がやはり発掘調査で見つかりました。現在この堤防は「宇治川太閤堤跡」として国の史跡に指定されていますが、法面の傾斜角度や水制を伴うなど窪・萩原遺跡で見つかった堤防と合わせてよく似た構造をもつ堤防です。造られた年代もほぼ前後する時期であったと考えられます。

窪・萩原遺跡の堤防は、太閤堤のように記録にこそ残っていませんが、その築堤技術の高さは太閤堤に勝るとも劣らぬもので、わが国の治水、堤防の歴史を考える上で欠く事のできない一級の遺跡と言えます。また、当時の流域に暮らしていた人々の生活や紀ノ川の氾濫に対して立ち向かった彼らの思いを現在に伝える歴史的文化遺産であるとも言えます。



三角形に張り出した水制



堤防本体の石積み状況



宇治市 史跡太閤堤 写真提供:宇治市教育委員会